

ポルトガル語

【単位数：1単位、授業13コマ(定期試験含まず)】

1 科目責任者

平田亜紀 准教授(外国語)

科目担当者

久保原信司(非常勤講師)

2 教育目標

(1) ねらい(I-2-c, I-5-c, II-1-c, II-2-c)

- ① コンピテンスである“コミュニケーション”を理解し，“プロフェッショナリズム”を身に付ける。
- ② 以下のような点を理解することで，語学学習を通して，個や集団に及ぼす文化・慣習による影響(コミュニケーションの在り方等)への理解が深まることがねらいである。(1) 他者の多様な価値観を尊重できること，(2) 患者と家族の心理・社会的背景を理解し，全人的に対応できること，(3) 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できること(3) 心理・生活・文化的背景を適切に把握するための，支持的・共感的なコミュニケーションをとることができること。

(2) 学修目標

- ① 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し，柔軟に対応できる。
- ② 良好な人間関係を構築するために必要なスキルとして，開講される外国語を母語とする患者へ簡単な挨拶や声かけをすることができる。
- ③ 言語・文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを例を挙げながら概説できる。
- ④ 基本的なポルトガル語文法が理解できる。
- ⑤ ポルトガル語で簡単な会話ができる。
- ⑥ 地域のブラジル人やブラジルにルーツを持つ人を身近な存在として感じられるようになる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
平常点	○	40%	語彙・文法の小テスト，実技試験，提出物など 【再評価について】 やむを得ない理由で欠席した場合は，科目責任者と教科担当者の両名へ問い合わせること。
定期試験	○	60%	記述式の筆記試験(一部多肢選択問題を含む)
態度	○	—	遅刻・欠席を含め受講態度不良の場合は，10%を限度に減点する。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は，再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験を実施する。60%以上を合格とする。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

毎回の小テストとレポートに対する解説は、授業中に随時行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
生きたブラジル・ポルトガル語・初級	兼安シルビア典子	同学社	ポルトガル語を学習する初学者に適した内容とレベルである。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
プログレッシブ・ポルトガル語	市之瀬 敦	小学館	ポルトガル語を学習する初学者から中級者に適した内容とレベルの辞書である。

6 準備学習（予習・復習）

- 予習は求めないが、復習は重要である。授業時間内にやり残した課題や十分に理解できなかったところは、復習しておくこと。それでも不明なことがある場合は、早めに質問をするように。
- 語彙については、こまめに復習し、習得の機会を増やすことが重要である(1コマあたり約0.5時間)。
- 毎週か隔週に行われる小テストの成績は配点が大きいので十分に準備して臨むこと(1コマあたり約40分)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的な文字の読み方と、発音練習を授業内で繰り返し行う。また文法等の演習課題を行うことと、理解のポイントについての解説が授業の中心となる。少人数できめ細かい語学指導を行う。授業には、教科書と前週までのハンドアウトを持参すること。

なおAB組の分け方は他の科目の分け方とは一致しないので注意すること。

(2) 講義の内容

ポルトガル語を初めて学修するための初中級向けの授業内容である。課題と解説を通じて発音、語彙、文法、重要表現の基本を身に付ける。授業中は、間違ふことを恐れずに、積極的に声に出して発音練習をすることが重要である。発音、語彙、文法の理解については、学生の理解度を確認しながら調整して解説を進めていく。また、疑問点や確認したいことがあれば、その都度、積極的に質問することを推奨する。